内科

採用施設一覧（◎は基幹施設、○は連携施設）

◎広尾病院
◎大久保病院
◎大塚病院
◎駒込病院
◎豊島病院

○東部地域病院
○神経病院

◎荏原病院
◎墨東病院
◎多摩総合医療センター
◎多摩北部医療センター
◎多摩南部地域病院

○松沢病院

研修プログラムの特徴

● 広尾病院（基幹施設）
東京都立広尾病院内科専門研修プログラム

プログラム責任者：腎臓内科　田島　真人　　プログラム研修期間：3～4年（一部サブスペシャリティ連動研修有）

東京都立広尾病院は、東京都区西南部（渋谷区、目黒区、世田谷区）に位置し、救急医療・災害医療・島しょ医療を重点医療とした病院です。内科診療科として、循環器科・呼吸器科・消化器科・神経内科・腎臓内科・内分泌 / 代謝科・血液内科を有します。さらに令和5年度からは病院総合診療科が新設され、さらに幅広い症例を経験する環境となっています。それらの中でも、救急医療に深く関わる循環器科は、都内でも有数の規模を誇ります。当院は約400床の中規模病院ですが、三次救急を扱う救命救急センターがあったり、東京都島しょ部（大島、三宅島、八丈島など）よりヘリ搬送の大半を引き受けていたりと様々な特色を有します。レジデントの皆さんがヘリに搭乗し、患者さんの搬送に携わる機会も多々あります。また、東京都に二つある基幹災害拠点病院の一つでもあり、災害医療に関する素養を身につけることも可能です。伝統的に各科の垣根が低いのが特色で、コンサルテーションや複数科での併診がしやすく、皆さんの研修のし易い環境と言えます。そのような当院の内科専門研修プログラムは、内科としての総合的な素養を磨くだけでなく、よりレジデントの皆さんの志望するサブスペシャリティー研修を重視することを目標としています。レジデントの皆さんとディスカッションを重ね、意見を取り入れ、より良い研修ができるよう、柔軟性のあるプログラムにしていきたいと考えております。

● 大久保病院（基幹施設）
東京都立大久保病院施設群内科東京医師アカデミー専門研修プログラム

プログラム責任者：副院長　鈴木　和仁

本プログラムでは、特定診療科に偏らず、満遍なく内科研修を行う「内科標準コース（研修期間3～4年）」、内科研修と専門研修を並行して行う「内科・サブスペシャルティ混合コース（研修期間4年）」そして2021年度から新たに「サブスペシャルティコース（研修期間2～3年）」を設け、専攻医の多様な要望に対応しております。

「内科標準コース」では、基幹施設である当院及び連携施設での研修により、専攻医3年終了時に「研修手帳」に定められた56疾患群、160症例以上の診療経験を達成します。規定の経験目標達成後は大久保病院で内科領域全般または希望

する専門領域の研修を行えます。専門領域から common disease の経験をはじめ、複数の病態を持った患者の診療経験の他、高次病院や地域病院との病病連携や診療所との病診連携も経験もでき、多彩な研修が可能です。「内科・サブスペシャルティ混合コース」では、専攻医１年目から内科領域全般の研修と並行して専門研修を開始できます。内科系各診療科は教育施設・研修施設の認定を受けており、専門領域について十分な指導体制を整えています。当院では研修困難な診療科（血液内科、アレルギー・膠原病内科、感染症科、ER《必修》等）や、他院での専門科目の研修を希望する場合は、２年次に連携施設で６～12ヶ月の院外研修で行います。

「サブスペシャルティコース」は、すでに専門医を取得または受験資格を有する方を対象としており、２～３年間で内科系サブスペシャルティを取得します。詳細は当院ホームページをご参照ください。

個々の希望・将来像に対応できるよう相談しながら研修プログラムを考えていきます。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
１年次	サブスペシャルティあるいは内科各科ローテーション											
	内科標準コースでは内科系７科から選択しローテーションします。内科・サブスペ混合コースではサブスペを中心とし、症例登録に不足している科を追加研修します。											
２年次	連携施設（サブスペシャルティコースを除き ER3ヶ月は必修）											
	両コース共に２年次に連携施設で６ヶ月～１年間の研修を行います。研修施設は当院では研修困難な診療科を中心に専攻医との相談の上選択します。											
３年次	サブスペシャルティあるいは内科各科ローテーション											
	内科標準コースにおいても規定の経験目標を達成後は３年次途中から希望するサブスペシャリティ研修に移行することができます。											
４年次	サブスペシャルティあるいは内科各科ローテーション											
	希望により１年間サブスペシャルティ研修を行うことができます。											

● 大塚病院（基幹施設）
東京都立大塚病院施設群内科東京医師アカデミー専門研修プログラム

プログラム責任者：消化器内科　倉田　仁　　プログラム研修期間：３～４年

当院の研修では消化器内科、呼吸器内科、循環器内科、腎臓内科、内分泌・代謝内科、脳神経内科、血液内科、リウマチ・膠原病科の専門医が垣根なく指導にあたります。脳神経内科、血液内科、リウマチ・膠原病科があり、脳神経内科、血液内科、膠原病系難病の症例も豊富です。基本コース３年間またはサブスペシャリティコース４年間で、最初の１ヶ月はオリエンテーションも含め、将来サブスペシャリティに希望する科を選択します。必修の救急 /ER 研修は、墨東病院・広尾病院・多摩総合医療センターのいずれかで経験を積みます。当院では、多臓器疾患の合併症を持つ高齢者を輪番制で受け持ち、総合内科初診外来を担当することで、オールラウンドな内科研修が可能です。

なお、各科ローテーションは履修状況で省略 / 延長可能（希望科として調整）となっているほか、希望科は場合によりサブスペ科も可能です。また、両コースともに新内科専門医のプログラムと連動しており専門医の取得が可能です。習熟度に応じて早期にサブスペシャリティ研修を開始し、スムースに移行できるよう配慮しています。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
１年次	希望科	神経	アレルギー	血液	膠原病	代謝	救急・ＥＲ			内分泌	循環器	消化器
２年次	呼吸器	腎	希望科	連携施設								
３年次	サブスペシャリティ											
４年次	サブスペシャリティ											

内科

駒込病院（基幹施設）
東京都立駒込病院施設群内科東京医師アカデミー専門研修プログラム

プログラム責任者：内科　岡本　朋　　プログラム研修期間：3～4年

本プログラムは、各診療科の総合基盤を備えた、がんと感染症を重視した病院であると同時に、東京都区中央部医療圏の2次救急病院である駒込病院を基幹施設として、東京都内にある連携施設・特別連携施設において施行されます。3年コース（内科専門研修コース）および4年コース（内科・サブスペシャルティ混合コース）が設置されています。いずれのコースも東京医師アカデミーとしてサブスペシャルティ領域を見据えたプログラムと連動しており、3年コースでは専攻医3年目からサブスペシャルティ研修を開始できます。4年コースでは、内科領域全般の研修を4年間かけて行うと同時に専攻医1年目から6か月のサブスペシャルティ専門研修を開始するコースです。令和8年度採用専攻医は消化器内科コース1名、血液内科コース2名、感染症科コース1名、呼吸器内科コース1名、腫瘍内科コース1名でした。

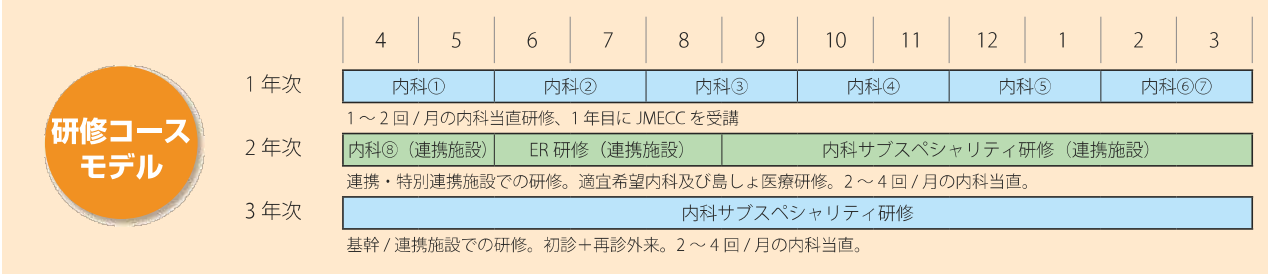
研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1年次	呼吸器内科						他の内科			ＥＲ（墨東病院）		
	内科・サブスペシャルティー混合コースの例で、1年目から呼吸器内科を6か月研修する。東京医師アカデミーではＥＲ研修が必須である。											
2年次	呼吸器内科						他の内科					
	内科領域全70疾患群、200症例以上の登録のために不足している科の研修も可能。											
3年次	呼吸器内科						放射線診断部			呼吸器内科（多摩総合医療センター）		
	連携施設では当院呼吸器内科で経験できない肺結核等の診療を学ぶことができる。											
4年次	呼吸器内科						緩和ケア科			呼吸器内科		
	4年間の研修終了後に内科専門医試験に合格し、その後に日本呼吸器学会専門医試験に合格することを目標とする。											

豊島病院（基幹施設）
東京都立豊島病院施設群内科東京医師アカデミー専門研修プログラム

プログラム責任者：内科　藤ヶ﨑　浩人　　プログラム研修期間：3～4年

本プログラムは、東京都区西北部医療圏の中心的な急性期病院である、東京都立豊島病院を基幹施設として、東京都区西北部医療圏、近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設とで構成されます。内科専門研修を経て、超高齢社会を迎えた我が国の医療事情を理解し、必要に応じた可塑性のある、地域の実情に合わせた実践的な医療が行えます。研修期間は基幹施設2年間＋連携施設・特別連携施設1年間の計3年間です。本研修では、症例をある時点で経験するということだけでなく、主担当医として入院から退院<初診・入院～退院・通院>まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する、全人的医療を実践します。そして、個々の患者に適切な医療を提供する計画を立て、実行する能力の修得をもって目標の達成とします。当院は急性期病院の一つであるとともに、地域の病診・病病連携の中核の一つです。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモンディジーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。本プログラムでは、専攻医が抱く専門医像や将来の希望に合わせて以下の3つのコース、①内科標準コース、②サブスペシャルティ重点研修コース、③内科・サブスペシャルティ混合コースを準備しています。コース選択後も条件を満たせば他のコースへの移行も認められます。



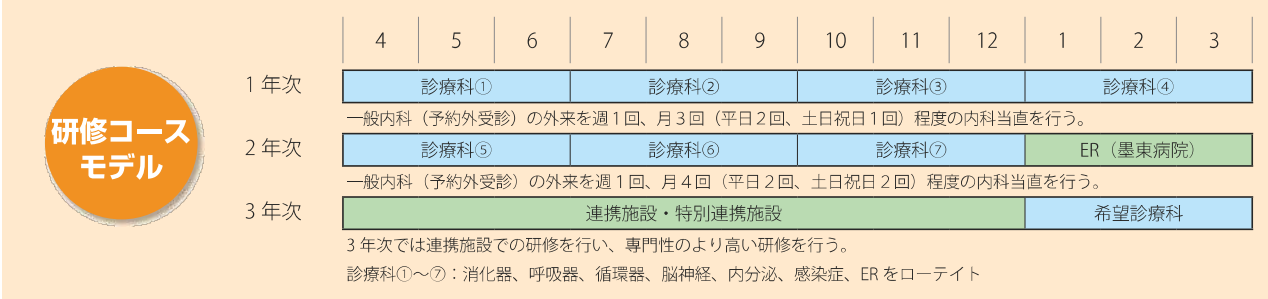
荏原病院（基幹施設）
東京都立病院機構東京都立荏原病院内科専門研修プログラム

プログラム責任者：内科　水谷　勝　　プログラム研修期間：3～4 年

当院は地域連携に重きを置いた急性期医療に取り組む地域密着型の病院です。救急医療、脳血管疾患医療、集学的がん医療を重点医療に掲げています。本プログラムでは、東京都区南部二次医療圏の中核的な急性期病院である当院を基幹施設として、都立病院、大学病院および地域特別連携施設と連携することによって各領域を網羅しています。本プログラムの理念は「心温まる医療を提供できる内科専門医を育成する」ことです。そのためには患者―医師信頼関係の構築、スタッフ間の調和、外部組織との連携協力関係の実践、専門知識・技術の習得、クリニカルクエスチョンの追求、医療環境の理解等、多岐にわたる視点が必要で、それらの問題意識を持って医療を行える内科専門医の育成を行います。

内科基本コースは、基幹施設 2 年間＋連携・特別連携施設 1 年間の計 3 年間であり、豊富な臨床経験を持つ指導医の適切な指導の下で、内科領域全般にわたる研修を通じて、標準的かつ全人的な内科的医療の実践に必要な知識と技能とを修得することを目指します。各自の希望や経験に合わせてローテイトを組むことができます。

また、2025 年度よりサブスペシャルティコース (4 年間) を新設し、充実したサブスペシャルティ領域の研修を行えるようになっております。



墨東病院（基幹施設）
都立墨東病院内科東京医師アカデミー専門研修プログラム

プログラム責任者：脳神経内科　水谷　真之　　プログラム研修期間：3～4 年（一部サブスペシャルティ連動研修有）

本プログラムは、区東部医療圏の中心的急性期病院である墨東病院を基幹施設とし、都区東部医療圏、近隣医療圏、都島しょにある連携・特別連携施設での専門研修を経て、超高齢社会、地域の実情に合わせた実践的な医療を行えるよう訓練されます。研修プログラムとして日本内科学会の提示する 4 つのタイプ（内科標準タイプ、サブスペシャリティ重点研修 1 年タイプ、サブスペシャリティ重点研修 2 年タイプ、内科・サブスペシャリティ混合タイプ）のいずれも選択可能です。当プログラムは基幹施設である東京都立墨東病院内科で 2 年間 (混合タイプは 3 年間) を、連携施設・特別連携施設で 1 年間の研修を行い、選択すべき施設と期間は専攻医の希望の他、達成度、進捗度を合わせてプログラム管理委員会で検討し決定します。4 年次は原則サブスペシャルティ専門医取得に向けた研修を継続しますが、内科専門医を取得した場合には計 3 年間でのプログラムの修了も可能とします。当研修では、主担当医として、入院から退院ま

での診断・治療を通じ、患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整の全人的医療を実践し、個々の患者に適切な医療の提供、計画を立て実行する能力の修得をもって目標の達成とします。当院は急性期病院かつ地域の病診・病病連携の中核病院であるため、高度な急性期医療のみならず、コモンディジーズ、また超高齢社会特有の複数病態を持った患者の診療、さらには必要に応じて診療所 (在宅訪問診療施設等含む) との連携等の経験も可能です。専攻医 3 年修了時には「研修手帳」に定められた 70 疾患群、200 症例以上の経験し、内科専門医取得を目指します。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1 年次	墨東病院											
	最初の 1 年間は墨東病院での内科研修（ER2 ヶ月含む）。ローテーション科は初期研修での達成度に応じて決定されます。											
2 年次	連携施設											
	連携病院でサブスペ研修											
3 年次	墨東病院											
	墨東病院でサブスペ研修（救命センター含む）											
4 年次	墨東病院											
	希望により墨東病院でサブスペ研修を継続し専門医取得											

● 多摩総合医療センター（基幹施設）
東京都立多摩総合医療センター内科専門研修プログラム

プログラム責任者：内分泌代謝内科　佐藤　文紀
プログラム研修期間：3 ～ 4 年（内科専門研修としては最短 3 年。一部サブスペシャリティ連動研修も可能。）

当院では、過去 10 年間に 100 名を超える内科系シニアレジデントの後期研修を担ってきた経験と実績があります。

基幹施設の内科系専門診療科には、総合診療科（内科研修における総合内科領域も担当）、循環器内科、消化器内科、呼吸器内科、神経内科、内分泌･代謝内科、腎臓内科、リウマチ膠原病内科、血液内科、感染症科、緩和ケア科があります。また、脳神経内科領域は、多摩総合にある神経脳血管内科では急性期脳血管障害が中心となります。神経難病の診療は主に都立神経病院脳神経内科で経験してください（別病院のため、連携施設研修扱いです）。救急外来・救命の計 3 か月は必修となっています。

内外のローテーションを通じて、内科専門医取得に必要な疾患群と症例をしっかり経験します。カリキュラムは，1 年目は各診療科をローテーション（原則 3 か月単位、一部診療科は 1.5 か月限定）、2 年目を中心に主に他県の連携施設等で研修、3 年目は専門内科で研修、という 3 年が基本ですが、連携施設の選択やその時期については予め志望専門内科分野の責任医師と相談しながら検討します。連携施設等での研修は、原則として合計 1 年（採用枠により合計 1 年半）が必須です。

内科専攻医の当直は月 4 回程度の救急外来当直からはじまります。

JMECC を早いうちに受講します。JMECC 受講済なら当院開催等でアシスタントを担い、インストラクターを目指してください。

専門内科サブスペ領域との連動研修は考慮していますが、本プログラム自体の年限は 3 年間でありサブスペ研修完遂まではカバーしておりません。ただし、J-OSLER の模範的な進捗を含めた内科研修実績等に基づき、さらに 1 年のサブスペ研修が考慮されることがあります。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1 年次	内科 1			救急外来 / 救命			内科 2			内科 3		
	【1 年目】3 か月 1 単位を原則としたローテーション研修を行う。救急外来 / 救命の計 3 か月は必修。											
2 年次	連携施設											
	【2 年目】東京都外の施設を中心とした連携施設研修を行う。施設によっては外来診療にも携わる。内科学会への病歴要約提出準備を行う。											
3 年次	専攻内科											
	【3 年目】病歴要約 29 編を提出する。専門診療科での研修を基本とし、週 1 回の外来診療にも従事する。											

多摩北部医療センター（基幹施設）
多摩北部医療センター施設群内科東京医師アカデミー専門研修プログラム

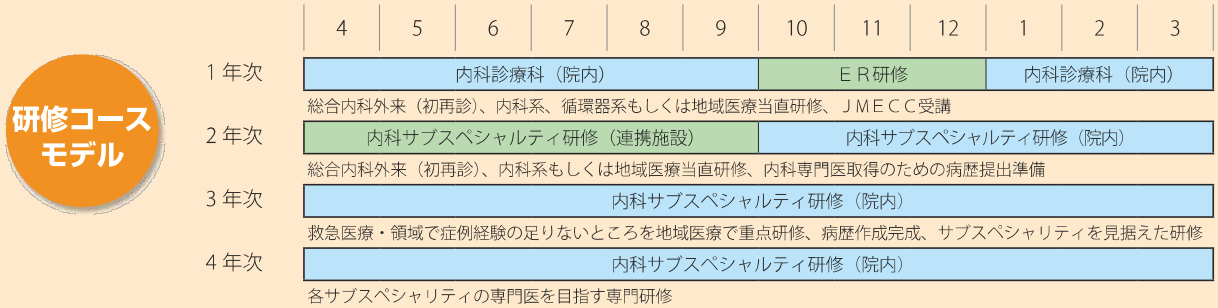
プログラム責任者：副院長　村﨑　理史　　プログラム研修期間：3 年

多摩北部医療センターを基幹施設とする、東京都北多摩北部医療圏 (人口約 74 万人) 中心の総合内科専門医育成を目的とした内科標準タイプ研修プログラムです。当院は医療圏の中心的な急性期病院であり、北多摩北部医療圏・近隣医療圏にある連携施設とともに研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指せます。

上記の様に多くの施設と連携を組んでおり、基幹施設である多摩北部医療センターでの 2 年間と連携施設群での 1 年間で、内科専攻研修において求められる「疾患群数」、「症例数」、「病歴提出数」を充分に得ることができます。さらにサブスペシャリティを中心とした専門研修プログラム構築にも柔軟に対応しており、専攻医の希望に沿った研修も行っています。また、当院のみでもカリキュラムに示す内科領域 15 分野のうち 13 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療していますが、連携病院とともにさらなる研修のレベルアップを図っていきます。

症例をある時点で経験するということだけではなく、主治医として、初診、入院から退院、外来通院まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。研修達成度によっては 4 年目に subspecialty 研修を行い専門医を目指すことも可能です。

当院は病床数 337 で、うち内科病床数 178 の初期臨床研修制度基幹型教育特殊病院（研修医 5 名 / 年）でもあり、研修に必要な医学教育アメニティを整備しています。



多摩南部地域病院（基幹施設）
多摩南部地域病院施設群内科東京医師アカデミー専門研修プログラム

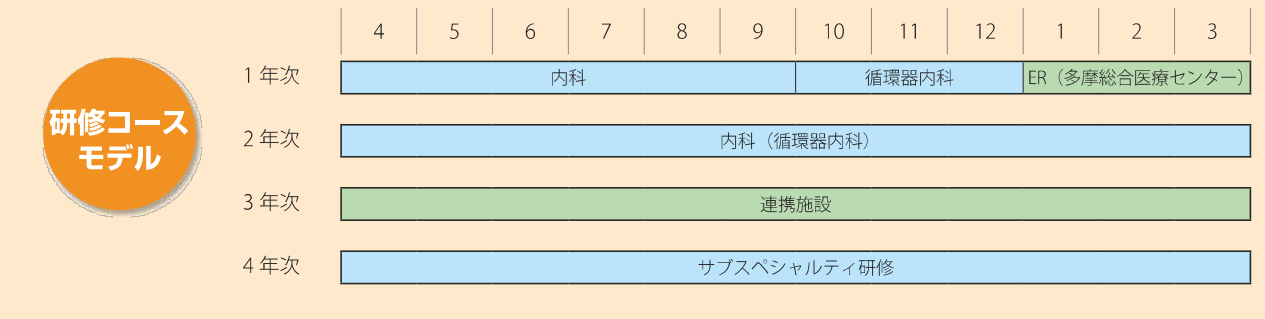
プログラム責任者：内科　本城　聡　　プログラム研修期間：3 ～ 4 年（一部サブスペシャルティ連動研修有）

内科専門プログラム（4 年コース）の研修で、連携施設である多摩総合医療センターあるいは多摩北部医療センターなどでの研修を含みます。また、内科専門医取得を目指しながら、多摩南部地域病院において希望する内科サブスペシャリティ分野の研修を並行して行うことも可能です。

多摩南部地域病院では、内科専門医取得のための症例経験を積むことが出来る他、循環器、呼吸器、消化器、糖尿病、リウマチ膠原病の内科系サブスペシャルティ研修に対応します。当院は、東京都 CCU ネットワーク加盟病院、消化器領域では病棟回診・カンファレンス・内視鏡検査など外科との一体的診療体制、緩和ケア病棟併設、多摩市周辺地域でリウマチ膠原病内科病棟を有する唯一の施設、などの特徴を有しております。また、多摩総合医療センターとは、指導医クラスの人材交流、患者の紹介・逆紹介、施設間カンファレンス開催など、近年、連携を強化していますので、当院のような中規模病院との組み合わせ研修により幅の広い診療経験を積むことができます。

多摩市周辺は、都心と異なり人口規模に比して急性期病院が多くありません。このため、内科急性期医療のニーズがとても大きく、豊富な症例に恵まれた研修環境です。しかも中規模病院のため内科の各分野間においてシームレスな連携をとっています。マルチプロブレムを抱える高齢者医療の必要性が高まる中、個々の患者さんに全人的・包括的視点で取り組む中で、内科専門医としての総合力を高めることができます。

内科

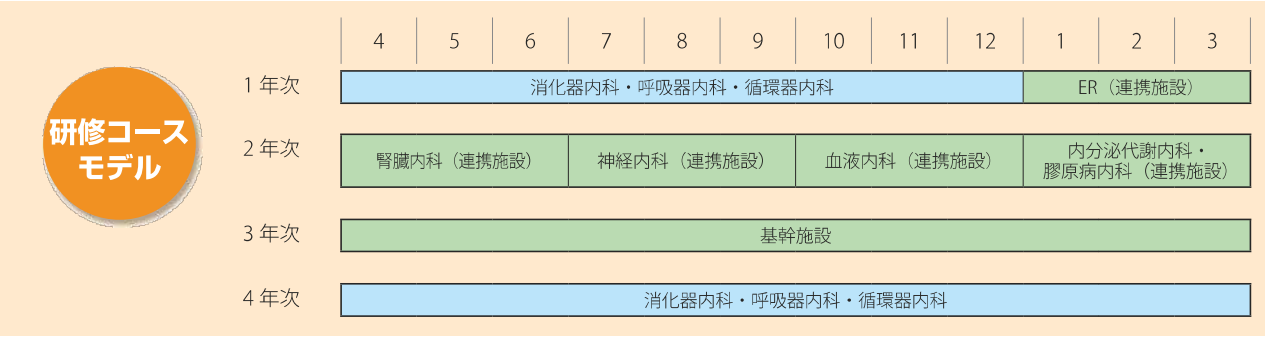


● 東部地域病院　（連携施設）

指導医責任者：内科　鈴木　聡子

研修は、東部地域病院と基幹施設病院の研修に加えて、他の連携施設等をローテーションして、内科全般の診療、技量の能力を身に付けた後、消化器、呼吸器、循環器いずれかの専門科の研修を進めていきます。

内視鏡検査（上部、下部、気管支鏡）、心臓カテーテル検査、超音波検査など幅広い技術を習得できます。各種内科学会への参加、発表を行います。



● 神経病院　（連携施設）

指導医責任者：脳神経内科　蕨　陽子

当院の脳神経内科コースは、広く都立病院の脳神経内科医療を担う神経内科専門医、またリサーチマインドを持った専門医の育成を目的としています。

(1) 都立病院（多摩総合医療センター、多摩南部地域病院、荏原病院）を基幹施設とし、4年間で内科と神経内科の2つの専門医を目指すコースです。当院は日本神経学会の教育施設であり、神経内科専門医試験の高い合格率を誇ります。

(2) 脳神経内科は全国最大規模の病床数（204床）と指導医数（27名の各科指導医）を有し、あらゆる神経疾患に関する知識や診療技術を身につけることができます。スタッフには神経生理、神経病理、神経放射線、高次機能、認知症、筋疾患、免疫性疾患、臨床遺伝学などのエキスパートがいます。地域療養支援、訪問診療の研修も行っており、診断の初期から終末期に至るまでの患者サポートや緩和ケア、多職種連携、地域連携を学ぶことができます。

(3) 症例検討会やCPCをはじめとした各種カンファレンスは充実しており、また医師アカデミー生対象の講義が年25回と電気生理学に特化した講義が年8回組まれています。

(4) 臨床研究や学会発表、論文執筆にも力を入れています。

(5) なお、当院は連携施設であり、当院での研修は、基幹施設のプログラムにおける連携研修の一部として行われます。そのため、下図のコースは一例であり、多様性があることをご理解ください。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1 年次	内科各科ローテーション（基幹施設）									ER 研修（基幹施設等）		
	説明：基幹施設での勤務を主体として、必修の救命救急短期研修と、専門医取得のために必要な内科症例や脳血管疾患の研修を行う。											
2 年次	連携研修（神経病院、または当院以外の連携病院）											
	説明：基幹施設の連携研修として、基幹施設の連携施設である神経病院、または他の連携病院で内科および脳神経内科の研修を行う。											
3 年次	脳神経内科病棟 1，高次機能			脳神経内科病棟 2，神経放射線			脳神経内科病棟 3，神経生理			脳神経内科病棟 4，神経病理		
	説明：神経病院での勤務を主体として、脳神経内科の各病棟医長の指導を受けながら，サブスペシャリティ研修も並行して行う。											
4 年次	脳神経内科病棟 5，リハビリテーション			院内他科研修			脳神経内科病棟 6，神経耳科・神経眼科			脳神経内科病棟 7，神経精神科		
	説明：神経病院に勤務し、脳神経内科病棟研修とサブスペシャリティ研修に加え、脳外科、小児科、放射線科などの院内他科研修も選択できる。											

（広尾病院 研修風景（心臓カテーテル））

（大塚病院 内科研修風景 (内視鏡)）

（大久保病院 院内研修風景）

（多摩北部医療センター 研修風景）